

ポスター発表 午後

2月7日(金) 13:30~14:30 体育館

<提案のポイント>

①

小学校 プログラミング教育
[総合教育センター研修]

小学校第4学年におけるプログラミング的思考を育む学習の展開

横浜市立横手南小学校 教諭 佐々木 洋

プログラミング的思考を育むために、第4学年児童の実態に応じたプログラミング体験を取り入れた学習を、アンブラグドからコンピュータを使ったプログラミング体験へと段階的に展開した。プログラミング的思考を意識した学習活動の中に、試行錯誤しながら協働的な学習ができる場面を設定したことで、多面的なものの見方や考え方に気付いたり、自分の考えを根拠をもって説明したりする児童の姿が見られた。

②

中学校 キャリア教育
[総合教育センター研修]

「提案サイクル」で「自らの意志で他者に働きかけていく力」を身に付けるキャリア教育の工夫

湯沢市立皆瀬中学校 教諭 小野寺仁志

生徒の主体性を育むための自己実現を支援する手立てとして、「自己を振り返る活動」「他者と関わり合う活動」「他者に働きかける活動」の循環による「提案サイクル」を実践した。自発性や意欲を高める手立てを講じることで、自己理解の深まり、自らの意志で他者に働きかけていく力の高まりが見られた。その結果、自己実現のための働きかけを自発的に実践するようになり、全ての生徒に主体性の向上が見られた。

③

中学校 英語
[総合教育センター研修]

中学校英語科における会話を展開する力を高める指導の工夫
～会話の展開を支援する「話しまシート」の活用を通して～

大仙市立太田中学校 教諭 吉田 潤子

自分の考えや気持ちなどを伝え合う即興性を意識した言語活動において、双方向のやり取りの深まりに課題がある第3学年の生徒を対象に、会話を展開する力を高める手立ての工夫を試みた。会話の展開を支援するワークシートを作成し、その活用に取り組んだ結果、シートを基に会話を円滑にする表現を使ってみたり、その場で表現方法を考えながら自分の考えや気持ちを伝え合ったりするなど、会話を展開する力の高まりにつながった。

④

特別支援学校 特別支援教育
[総合教育センター研修]

肢体不自由・病弱特別支援学校小学部児童への自立活動の指導
～自己管理をする力につながる自己理解の深化を目指して～

県立秋田きらり支援学校 教諭 藤井奈緒子

障害のある児童生徒が将来社会に出て生活していく上で、「自分でできること、補助的な手段を活用すればできること、依頼して援助を受けること」を判断し行動する力(自己管理をする力)が不可欠である。本研究では、自己管理をする力の前提として、自己理解を深めることが必要と考え、「自分チェック表」で自己理解の状態を把握し、自己管理をする力につなげるための「マイサポートシート」を用いて自立活動の指導を行い、検証した。

⑤

小学校 外国語活動
[総合教育センター研修・小学校外国語教育実践研究]

自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う外国語活動
～伝え合う活動への「段階的なアプローチ」を通して～

大仙市立太田東小学校 教諭 村田 正紀

令和2年度に全面実施される小学校中学年の外国語活動では、「自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養うこと」とされている。伝え合う活動への「段階的なアプローチ」を用いて単元の指導計画を構成し、コミュニケーションを円滑にする働きを意識して活動できるよう実践した。その結果、相手と「伝え合う」ことを意識して活動し、伝え合うことの楽しさや自信を感じられる児童が増え、伝え合う力の素地が養われてきた。

ポスター発表 午後

2月7日(金) 13:30~14:30 体育館

<提案のポイント>

全学年を通じて、帯活動として「Small Talk」を行い、その場で提示された topic について指定時間内にペアで即興で伝え合う活動を継続して行った。また、speaking 活動においては、中間発表・評価を入れ、教師や生徒同士が互いにアドバイスし合う時間を設けることで、「もっと話せるようになりたい」という意欲を向上させ、内容もレベルアップしたやり取りができるようになりつつある。

新学習指導要領における自立活動では、「一人一人の障害の状態に応じた指導の充実」が挙げられている。本校では、「個々がもつ学習上、生活上の『困難さ』は何か」「その背景に何があるのか」「それを解決するためにはどうすれば良いか」の視点から、抽出生徒について検討する「子ども理解ミーティング」を実施した。ミーティングによって丁寧な実態把握や的確な目標設定が検討されるようになり、指導者の意識が変わり始め、自立活動の視点をより意識した授業づくりが見られるようになってきている。

「主体的・対話的で深い学び」において、生徒が学ぶことに興味や関心をもち、自己の学習活動を振り返って次の学びにつなげることが重要である。本研究では、先行研究や調査研究の結果を基に、知的障害特別支援学校、高等部作業学習における自己評価に着目した振り返り活動の実践を通して、生徒自身が自らの学びを振り返り、学んだことを次の学びにつなげる「学びのPDCAサイクル」について提案する。

科学的な視点から捉えた農業科学館の展示物や多種多様な植栽、食や農についての学びや体験等を生かし、身近な野菜や植物の根の観察、様々な植栽の観察ポイント等をまとめた小学校の理科の発展的な学習を提案した。そういった学習を通すことで、再度自然の事物・現象や日常生活を見直して学習内容を深く理解したり、新しい問題を見いだしたりする機会が多くなったりして、主体的に問題解決しようとする態度を育てられるのではないかと考えた。

中学校・高等学校の教科担任制と異なり、小学校では担任が教科のほとんどを教えるが、教員の多くは技能教科を専門としない。書写や体操、描画等を児童の前で実践することを望まれても、私を含め、教師全員が全てを実演できる十分な技能を持ち合わせているとは言い難い。その中で、美術を専門としない小学校教諭が、自身の技能を強化するためにはいかにしたら良いのか。有効な研修場所として県立近代美術館の体験プログラムの活用を紹介する。

⑥

中学校 英語
[拠点校・協力校英語授業改善事業]

その場で感じたことや考えたことを様々な表現を用いて伝え合う生徒の育成

仙北市立生保内中学校 教諭 佐藤 美香
教諭 池田安理沙

⑦

特別支援学校 特別支援教育
[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究充実事業]

一人一人が学んだことを実感し、自分から行動する姿を目指して
～各教科等の指導を支える自立活動の視点から～

県立支援学校天王みどり学園 教諭 工藤 裕子

⑧

特別支援学校 特別支援教育
[秋田大学教職大学院研修]

知的障害特別支援学校における学びのPDCAサイクルの確立を目指して
～授業における生徒の自己評価の検討を通して～

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 教諭 相原 淳

⑨

小学校 理科
[長期社会体験研修(県立農業科学館)]

農業科学館の展示物や植栽等を活用した小学校理科の発展学習の活用事例作成

横手市立浅舞小学校 教諭 三浦 晋

⑩

小学校 図画工作
[長期社会体験研修(県立近代美術館)]

美術を専門としない教師の技能・知識の向上と指導について
～キンビ・創作体験プログラムの活用について～

湯沢市立湯沢東小学校 教諭 高橋さおり

ポスター発表 午後

2月7日(金) 13:30~14:30 体育館

<提案のポイント>

⑪

中学校 理科
[長期社会体験研修(あきた白神体験センター)]

八峰白神ジオパークを活用した体験学習プログラム
の開発
~中学校理科の授業での実施を目指して~

八峰町立八峰中学校 教諭 松岡 博樹

中学校理科の「大地の成り立ちと変化」の学習において、地形や地層、岩石などの観察、及びジオパークなどの利用が求められている。あきた白神体験センターは、八峰白神ジオパークの中に位置し、ジオパークを活用した学習に適したロケーションにある。そこで、ジオポイントでの野外観察を取り入れ、理科の授業としても利用できる活動プログラムを開発し、その効果を検証した。

⑫

特別支援学校 特別支援教育

将来の生活を見据えた「食を通して身に付く力」
を育てる生活指導(二・三年次)

県立栗田支援学校 寄宿舎指導員 金釜 未幸

本校寄宿舎では、卒業後の生活を見据えた生きる力を育てるため、日々の活動の中で、生徒が主体的に行う活動が必要であると考えた。そこで、生徒が寄宿舎生活の中で、最も興味・関心のある「食」に焦点を当て、生徒の主体性を生かした「セルフ配膳」と「ティータイム」の実践研究を行ってきた。この2つの活動を軸として、将来の社会生活や日常生活に必要な6つの力(挨拶、時間厳守、協力、衛生面、健康管理、思いやり)の育成を目指した実践を紹介する。

⑬

小学校 ふるさと教育
[長期社会体験研修(県立博物館)]

博物館の資料を活用したふるさと教育教材の
開発
~秋田の先覚記念室資料作成を通して~

五城目町立五城目小学校 教諭 櫻庭 悦央

県立博物館では、秋田の先覚に関するそれぞれの解説資料を自由に手にすることができるが、一般向けのため小学生にとって難しい内容となっている。このため、セカンドスクール利用やふるさと教育で補助教材として活用することを目指して、小学生向けの資料作成に取り組んだ。作成した資料を用いてセカンドスクールで解説を行った結果、地域の先覚への関心を高めることやその業績への理解を深めることに有効であることを確認できた。

⑭

特別支援学校 特別支援教育
[秋田大学教職大学院研修]

学校におけるインクルーシブ教育システム構築への
提案
~合理的配慮と基礎的環境整備の充実に
向けた検討を通して~

県立ゆり支援学校 教諭 池田 和馬

2016年4月から「障害者差別解消法」が施行され、公立学校における障害のある子どもに対する合理的配慮の提供が義務規定となった。しかし、先行研究から、学校では「その内容の理解が広まっていない」と指摘されている。そこで本研究では、小中学校におけるインタビュー調査等を通して、合理的配慮や基礎的環境整備の現状を整理し、充実に向けた取組を検討した。インクルーシブ教育システム構築に向けた校内体制や支援等について提案する。

⑮

高等学校 理科
[齋藤憲三・山崎貞一顕彰会“個人研究”]

ブラックホールを題材とした理科授業の開発
~東北地区の教育資源を活用して~

県立横手清陵学院高等学校 教諭 瀬々 将史

平成31年4月の「ブラックホール撮像成功」の成果を受け、その一役を担った国立天文台水沢観測所の紹介と、生徒が手を動かしながら学べるブラックホールの学習活動を盛り込んだ理科授業の開発と実践を行った。授業は、高校1・2年生を対象とし計2回実施した。事後アンケートから、授業の難易度は適切であり、かつ生徒の興味・関心が高まる様子が把握できた。最後に、他の教員が利用できるような教材化について検討する。